

海の安全レポート

第七管区海上保安本部
海の安全推進室
Tel.093-331-6395(交通部安全対策課)

第179号 令和4年2月号



BACKNUMBER (二次元コードは右側をご利用ください。)

https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_zen_report/

STOP「～だろう」運航! START「～かもしれない」運航!

小型船舶の海難は全海難の約7割を占めており、原因は、見張り不十分、操船不適切、船位不確認、気象海象不注意等様々です。

その背景には事故当事者が「～だろう」と思い込んだ結果、海難に繋がったという事例が多くあります。今回は「～だろう」と思い込んだことが原因である事例を紹介し、「～かもしれない」と警戒すべき点をあげました。

自分の操船を思い出してみてください。もしかするとあなたが当事者になっていたかもしれません。



【死角に船はいないだろう：見張り不十分】

プレジャーボートの船長は目的地に向け航行中、船首部が浮き上がり船首方が見えづらいにも関わらず「前方に船はいないだろう」と臆断し、見張りを疎かにした結果、漂泊していた船舶と衝突しました。



【死角に船がいるかもしれない】

航行中に自船の船首部が浮き上がり、船首方が見えづらい場合は、「**死角に船が隠れているかもしれない**」という意識を持ち、同一の場所から見張りを行うだけでなく、可能な限り操船場所から移動するなどして死角を補う操船を心掛ける必要があります。

【相手が避けてくれるだろう：操船不適切】

プレジャーボートの船長は漂泊して釣りをしていたところ、近づいてくる船舶を視認していましたが「**相手が避けてくれるだろう**」と臆断し、釣りを続けた結果、相手船と衝突しました。



【相手が気付いていないかもしれない】

漂泊中に船舶が近づいてくるところを視認した場合、「**相手がこちらに気付いていないかもしれない**」という意識を持ち、機関を起動させ早めに避ける必要があります。

【見える浅瀬に注意すれば大丈夫だろう：船位不確認】

プレジャーボートの船長は遊覧目的で出港し、航行する海域には浅瀬が多数存在していることを認識しているにもかかわらず「**見えている浅瀬のみに注意していれば大丈夫だろう**」と臆断して航行した結果、水中存在していた暗岩に乗揚げました。



【見えない浅瀬（干出している浅瀬）があるかもしれない】

陸地の付近や狭い水路等を航行する場合は、「**見えない浅瀬があるかもしれない**」という意識を持ち、事前に航行する海域を海図等で十分に確認し、航海計器等を使用して自船の位置を常時把握したうえで航行することが必要です。

【時化ないだろう：気象海象不注意】

ミニボートの船長は前日に次第に風が強くなる情報を入手していたものの「**そんなに時化ないだろう**」と臆断し、その後、気象情報を入手しなかった結果、風が強まったことによる波浪の影響で転覆しました。



【時化するかもしれない】

ミニボートは耐候性が低く、風潮流の影響を受けやすいため「**荒天になるかもしれない**」という意識を持ち、出港直前や釣り中であっても最新の気象情報を入手し、荒天が予想される場合は、出航をとりやめるか直ちに帰港する判断が必要です。